

2020年度  
令和2年度  
第11期  
事業報告

2021年6月21日

2011年の、東日本大震災による寄付への関心・意識の高まりや、「市民公益税制」の整備、そして2012年の、内閣府の基金事業「新しい公共支援事業」をきっかけとする市民コミュニティ財団設立の動き、またクラウドファンディングの浸透など、寄付や社会貢献への意識や期待は高まっていた。2014年には、市民コミュニティ財団の全国組織である一般社団法人全国市民コミュニティ財団協会が設立。2016年には遺贈寄付を推進する全国レガシーギフト協会の設立（当財団加盟）や休眠預金活用に係る法律（2016年12月9日）の成立など、地域社会を構築していくための社会的投資の動きが活発になっています。一方で、市民の志を基にする社会資源を活用するには高い倫理規範と成果を求められている。

2020年度は第11期となり、新型コロナウイルスの感染拡大により、社会環境の変化が激しい年となった。県内で課題解決に取り組む団体にとって、新規ニーズや既存ニーズの拡大、今までの事業モデルの転換等、多くの変化が求められた。当財団では、公2の資金循環事業では、休眠預金事業の新型コロナウイルス対応緊急支援助成を活用し、コロナ禍での状況変化に対応するための助成事業を実施した。また、寄付と助成のプログラムにはコロナ禍での寄付金募集の相談が多く寄せられた。地域円卓会議では、コロナ禍で多くの人が集まったの会議が難しくなったことから、オンライン版の円卓会議を開発し、11回開催した。また改訂版の円卓マニュアル作成し販売、琉球大学の公共政策士の講義では全15講義の円卓会議の開催方法の講義を開講。ノウハウの提供に努めた。一方で、10周年事業などの事業は未実施となり、次年度に持ち越すととなった。

2020年度 方針  
に基づき事業実施

- ◆ 地域円卓会議を実施し課題の可視化と共有、ノウハウの提供
- ◆ 公益税制を活用した基金事業の実施
- ◆ 休眠預金交付金事業・沖縄・離島子どもの派遣基金事業の取組
- ◆ 寄付者の意思をより課題解決を促す資金として反映させるためにコレクティブインパクト基金のシステム構築
- ◆ 10周年事業の開催
- ◆ ガバナンスコンプライアンス体制の構築

## 社会の共感を育て、資金の循環を促す仕組みの構築

当法人は、沖縄における公益活動団体と、公益活動を支えたい企業、団体、個人等とを橋渡しするため、市民活動の社会的基盤の充実を図り、諸資源の循環をもたらすことで、地域のあらゆる主体が公益を担い、沖縄の未来を支え合う社会の実現に寄与することを目的とする。  
(定款第3条)

## 情報流通

市民活動の情報発信を促進し、市民の“共感”を育む

公益ポータルサイトの運営  
ソーシャル・ヒトワク  
広報誌等による情報発信  
県内外の寄付文化に関する情報収集と発信

## 資金循環

“共感”による寄付で、市民活動団体が自律的かつ継続的に活動できる環境づくりをめざす

市民活動を支援する基金の運営  
市民活動団体への寄付と助成のプログラム提供  
寄付文化を醸成するフォーラム等の開催  
他機関の助成プログラム等の支援  
企業CSR/CRMの促進

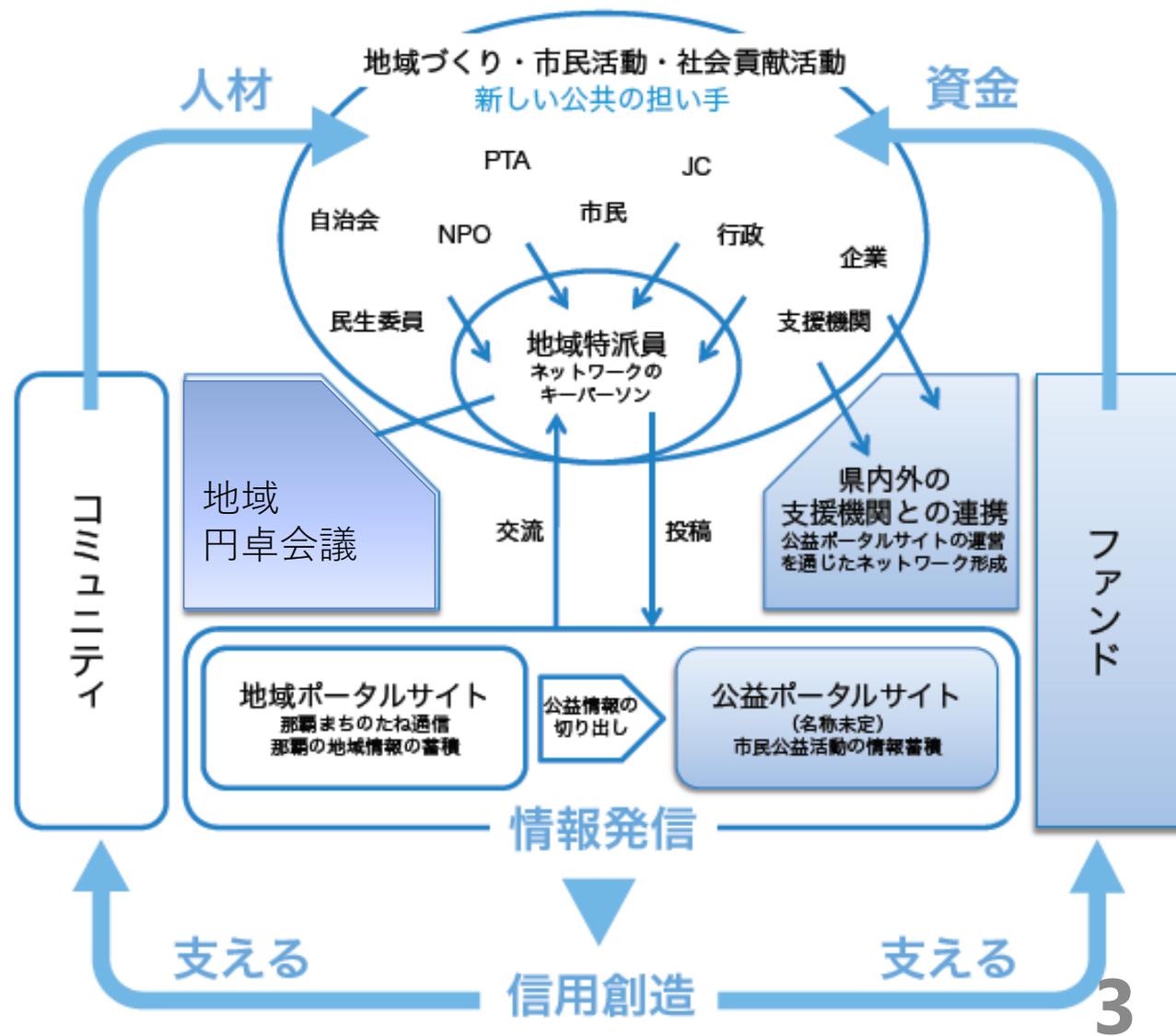
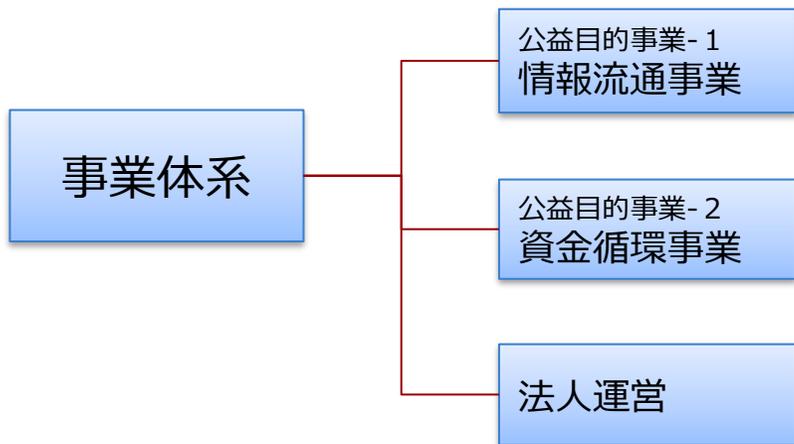
# 事業スキーム

社会の共感を育て、資金の循環を促すしくみの構築に取り組む

当財団は、市民コミュニティ財団として公益法人格を有して、以下の公益目的事業を実施する。

コミュニティ財団とは、地域の人々によって設立され、地域のために活動する慈善事業組織です。この組織は、地域からの寄付によって成り立ち、市民によって構成される理事会によって運営され、地域社会のより良い暮らしのために活動しています。資金源は多種多様であり、地域社会の長期的な生活の質の向上のために活用されています。これらの資金は地域社会の代表の選択により各種組織・目的に向けて配分されます。

(全国コミュニティ財団協会資料より抜粋)



# 2020年度目指した成果

## 社会の共感を育て、資金の循環を促す仕組みの構築

### 情報流通

市民活動の情報発信を促進し、市民の“共感”を育む

### 資金循環

“共感”による寄付で、市民活動団体が自律的かつ継続的に活動できる環境づくりをめざす

### 法人運営

## 2020年度活動

- 公益ポータルサイトの運営
- ソーシャル・ヒトワク
- 広報誌等による情報発信
- 県内外の寄付文化に関する情報収集と発信

- 市民が市民の活動を支える基金
  - テーマ型基金
  - 寄付と助成のプログラムたくす
  - 寄付と助成のプログラムカスタマイズ
  - じぶん基金（DAF）
- 寄付を促す社会環境づくり
  - 寄付システムの提供
  - いそご寄付の窓口
  - 寄付月間の開催

- 他機関の助成プログラム等の支援
  - 休眠預金交付金事業の実施
- 社会課題の可視化と取組
  - 沖縄式地域円卓会議の実施
  - コレクティブインパクト事業

- 理事会機能の強化
  - 新理事の招聘
  - ガバナンスコンプライアンス委員会の設置

## 成果目標とKPI

### 市民活動の情報発信を促進する

- 団体情報DBの再構築
- 収益構造の見直し

### 基金数が増加する中、基金設置者にも寄付者にも信頼されるために、事務の省力化と基金の成果の可視化を図る

- じぶん基金の推進（新規2基金）
- 寄付と助成Pカスタマイズ（新規2基金）
- 基金作業フローと事務省力化
- 基金の助成成果の可視化
- 10周年事業

### ステークホルダーと社会の困りごとを可視化し、コレクティブインパクトを図る

- コロナ禍でも実施できる地域円卓会議の取り組み（12本）
- 休眠事業の自己負担（20%）の確保

### ガバナンス・コンプライアンス体制を高め社会的に信頼される財団運営の構築

- 会計業務の効率化
- CFJ第三者認証プログラム

■ 公益目的事業 事業項目	■ 成果目標	■ 達成状況 ◎○△×
公1 ー情報流通 ● <u>(1) 公益ポータルサイトの運営</u>	市民活動の情報発信を促進と団体情報DBの再構築。 収益構造の見直し	△
公2 ー資金循環 ● <u>(1)～(4) 市民が市民の活動を支える基金</u>	基金数が増加する中、基金設置者にも寄付者にも信頼されるために、事務の省力化と基金の成果の可視化を図る <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ じぶん基金の推進（新規2基金）</li> <li>➢ 寄付と助成Pカスタマイズ（新規2基金）</li> </ul>	○
● <u>寄付を促す社会環境づくり</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 基金作業フローと事務省力化</li> <li>➢ 基金の助成成果の可視化</li> <li>➢ 10周年事業</li> </ul>	△ ×
● <u>(5) 他機関の助成プログラム等の支援</u>	ステークホルダーと社会の困りごとを可視化し、コレクティブインパクトを図る <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 休眠預金交付金事業 自己負担（20%）の確保</li> </ul>	△
● <u>(6) マッチングイベントの実施</u>	社会課題の可視化と取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ コロナ禍でも実施できる地域円卓会議の取り組み（12本）</li> </ul>	◎
法人運営	ガバナンス・コンプライアンス体制を高め社会的に信頼される財団運営の構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 会計業務の効率化</li> <li>➢ CFJ第三者認証プログラム</li> </ul>	△ ×

2019年度の受入寄付額 6,598,855円 (260件)  
前年度比 796,097円 (+125件)

## 基金

### 寄付総額 7,394,952円 (385件) 新基金設置5基金

- 2020年度内の採択：第13期たくす 2事業 (ぴんくぱんさあ・沖縄県女性の翼)  
カスタマイズ 4事業 (多文化ネットワークfuふ！おきなわ基金、ドネーションショップ基金、まちなか留学基金、ミマモライド基金)
  - じぶん基金：4基金 新崎盛暉平和活動奨励基金、宮里大八国際交流基金、琉球宇温基金、中野五海・篠木あつ子基金)
  - うむさん基金 (Ryukyufrogs基金、エンカレッジ基金)、沖縄まちと子ども基金
- 寄付募集目標総額 22,020千円 前年度受付寄付総額 659千円

### 寄付月間2020 沖縄パネル展の開催

- 沖縄県立図書館3階展示コーナーにて開催 (R2年12月16日～R3年1月4日)
- 参加：NPO1 沖縄県1 大学1



贈呈式 中野さん、篠木さんと採択者の秋山さん

## 助成

### 助成総額 44,208,552円 休眠預金事業含む

- たくす：第12期 2団体、第13期 1団体、たくすカスタマイズ 2団体 (日本こどもみらい、多文化ネットワークfuふ！おきなわ) — じぶん基金：新崎盛暉平和活動奨励基金 助成実施 1団体 (コープおきなわ)、琉球宇温基金 助成実施 2団体 (中野五海・篠木あつ子基金 (2名)、宮里大八基金 (2019年度助成の精算))

## 課題解決

### 地域円卓会議が好評！ 11回開催・支援

- 開催場所 (那覇市、沖縄市、オンライン開催)
- テーマ (子どもの貧困、コロナ禍の外国人留学生)
- 休眠部活円卓会議3本を主催

### 休眠預金等活用法に基づく資金分配団体に決定

- 一般財団法人日本民間公益活動連携機構 (JANPIA)助成事業  
事業名：沖縄・離島子どもの派遣基金事業
- 休眠預金活用事業-新型コロナウイルス対応緊急支援助成  
事業名：『コロナ禍で孤立したNPOとその先の支援』事業



オンライン円卓会議  
1/30 部活動派遣費問題を考える地域円卓会議

# ■ 休眠預金活用事業-新型コロナウイルス対応緊急支援助成 『コロナ禍で孤立したNPOとその先の支援』事業

事業総額：28,243,000円 助成総額：21,600,000円

## 実行団体一覧

1. 特定非営利活動法人1万人井戸端会議（助成金額：3,497,350円）  
**課題の見える化と行動できるコミュニティへ：コロナ禍をきっかけに日頃の地域力アップ**
2. 特定非営利活動法人沖縄NGOセンター（助成金額：3,596,520円）  
**多文化共生セーフティーネットワークの構築：コロナ禍のいま、地域で共に生きるために**
3. NPO法人沖縄県学童・保育支援センター（助成金額：3,600,000円）  
**コロナ禍だからこそ繋がる！：子どもたちに遊びを取り戻すために！**
4. 一般社団法人おきなわジュニア科学クラブ（助成金額：3,006,377円）  
**子どもの居場所×フードパントリー：地域インフラとなる福祉連携の拠点づくり**
5. 特定非営利活動法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい（助成金額：3,575,326円）  
**アンダーコロナに対応するICT整備事業**
6. 一般社団法人琉球フィルハーモニック（助成金額：3,600,000円）  
**音楽による子どもの居場所づくり：ジュニアジャズオーケストラ活動**

# 決算報告—経常増減の部

	2020年度 (a)	2019年度 (b)	差額 (a)-(b)	説明
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部 (1) 経常収益				
事業収益	1,718,500	4,423,402	-2,704,902	円卓会議の回数は前年比同数。休眠事業実施にともない主催円卓会議が増え収入減
受取補助金等	52,535,634	3,846,356	48,689,278	2019年度より休眠事業実施。2020年度は実行団体への助成実施。休眠新型コロナ緊急助成を実施したため
受取寄付金	6,115,092	5,305,956	809,136	
雑収益	61,718	110	61,608	
<b>経常収益計</b>	<b>60,430,944</b>	<b>13,575,824</b>	<b>46,855,120</b>	

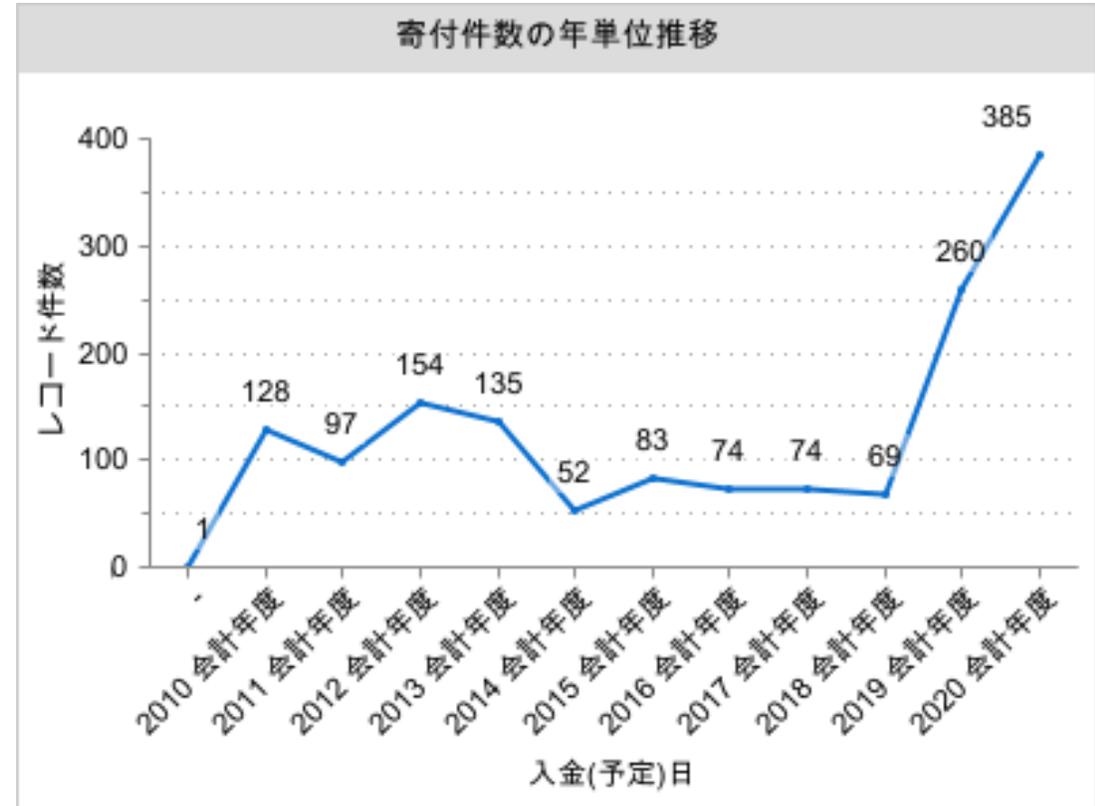
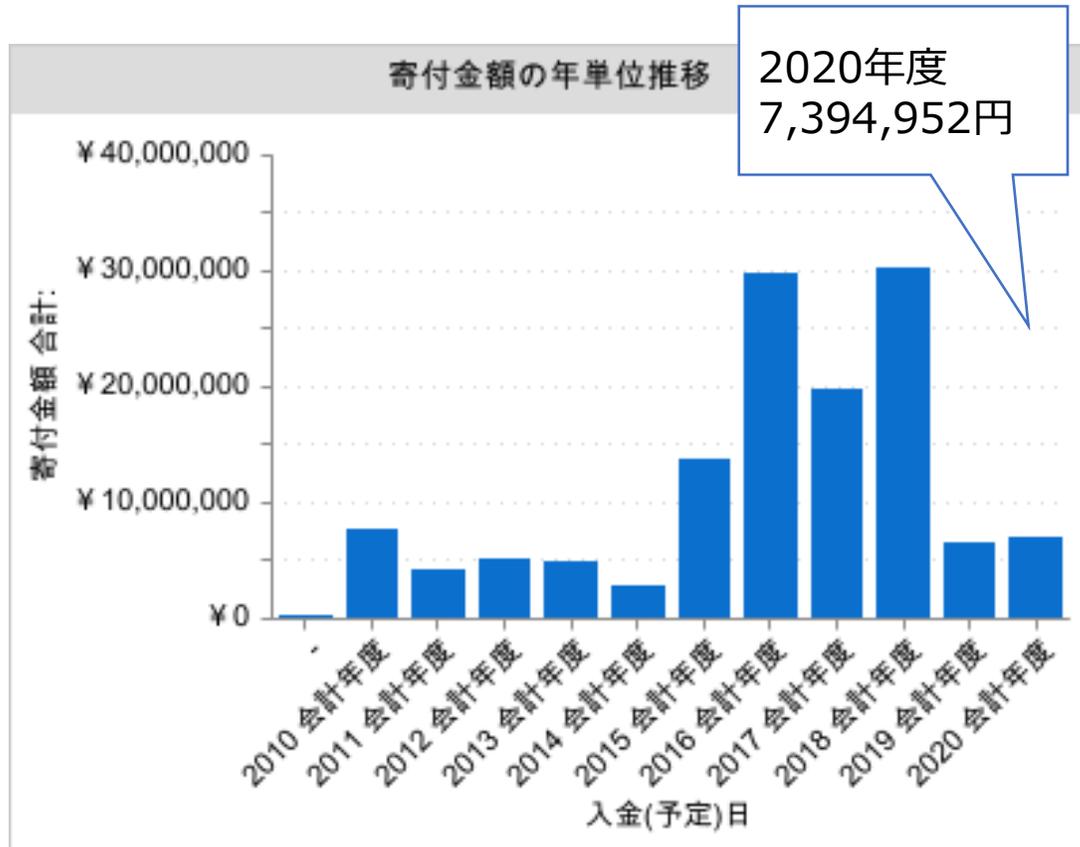
# 決算報告—経常増減の部

	2020年度 (a)	2019年度 (b)	差額 (a)-(b)	説明
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部（経常費用）				
事業費	54,876,836	12,643,118	42,233,718	
内人件費	5,291,247	2,893,292	2,397,955	休眠事業新型コロナ支援事業が増えたためスタッフ増員
内支払助成金	44,208,552	4,342,750	39,865,802	休眠預金事業の部活派遣事業とコロナ支援事業の助成金の内訳が39,888,015円
内その他経費	5,377,037	5,407,076	-30,039	
管理費	6,095,133	2,755,568	3,339,565	
<b>経常収益計</b>	<b>60,971,969</b>	<b>13,575,824</b>	<b>46,855,120</b>	経費のうち73%は助成金として支出
<b>当期経常増減額</b>	<b>-541,025</b>	<b>-1,822,862</b>	<b>1,281,837</b>	昨年度より赤字幅は縮小 収支相償はクリア

# 決算報告—経常増減の部

	2020年度 (a)	2019年度 (b)	差額 (a)-(b)	説明
<b>I 一般正味財産増減の部</b>				
当期一般正味財産増減額	-541,025	-1,822,862	1,281,837	
一般正味財産期首残高	3,494,792	5,317,654	-1,822,862	
<b>一般正味財産期末残高</b>	<b>2,953,767</b>	<b>3,494,792</b>	<b>-541,025</b>	
<b>II 指定正味財産増減の部</b>				
受取寄付金	7,394,952	6,560,495	834,457	
一般正味財産への振替額	6,115,092	5,305,956	809,136	
当期指定正味財産増減額	1,279,860	1,254,539	25,321	
指定正味財産期首残高	7,972,349	6,717,810	1,254,539	
<b>指定正味財産期末残高</b>	<b>9,252,209</b>	<b>7,972,349</b>	<b>1,279,860</b>	
<b>III 正味財産期末残高</b>				
<b>正味財産期末残高</b>	<b>12,205,976</b>	<b>11,467,141</b>	<b>738,835</b>	

# 寄付金額と件数の推移



寄付金額

**132,181,681円**

延べ寄付者数

**1,512件**

# 2020年度事業活動を通しての課題と2021年度申し送り事項（内部用スライド）

社会の共感を育て、資金の循環を促す仕組みの構築

## 情報流通

市民活動の情報発信を促進し、市民の“共感”を育む

## 資金循環

“共感”による寄付で、市民活動団体が自律的かつ継続的に活動できる環境づくりをめざす

## 法人運営

## 2020年度活動の課題（案）

- 公益ポータルサイト
- 情報流通の**コンセプトの再検討**⇒チャレンジのための情報開示。（**企業も含める**）
- 社会的信用、信用創造、公益とは何かの議論

- 市民が市民の活動を支える基金
- 基金設置後の**サポートができていない**。増えることがベンチマークなのか要検討
- 良い基金とは、みらいF（ゴミ財）としての関わりが基金作りの段階で企画に入ること。
- 平良POの負担増。売上も依存しており、**負担軽減、業務の細分化、分担。PO育成検討**

- 寄付を促す社会環境づくり
- 遺贈寄付、10周年が**未着手**

- 休眠預金交付金事業について
- 自己資金20%の確保に向け着手し、企業協賛も出てきたが、部活派遣費の**ファンドレイズの実施までには至らなかつた**

- 地域円卓会議について
- オンライン化によって、コロナ対応ができたが、**オンライン時による集客**に課題がある

- 法人運営業務が多忙に
- 休眠事業の管理的経費の按分で、費用負担の持ち出しは減っているが、**基金の増、休眠事業の事務業務で仕事量は増えている**

## 2021年度申し送り事項（案）

- 公益目的事業において、公益性の判断を情報開示で行っている。修正するにあたっては、公益目的の変更しない範囲で行う

- コミ財として、良い基金を世に出し**運営することが重要**。社会発信することが大事
- そのために**POの力が必要**で、現在、PO一人への依存体制から、業務分担をはかり、育成も
- 他組織（JANPIA、CFJ）と概念のすり合わせ
- 県内で**研修型でPO適正の人を集めてみては**
- 10周年事業は、みらいFの知見をアーカイブし、次の10年を発信する意味でも重要。単独では難しい。遺族寄付や休眠事業と**連動し実施検討**

- 休眠預金交付金事業
- 今年度中に自己資金20%の目途をつける
- 実際にどのタイミングでいくら必要か算出を
- 新規申請の場合は、事務負担を考慮して申請
- 地域円卓会議について
- オンライン、リアルを使い分け
- オンラインの開催後の発信が弱い

- システムの活用を通じて事務業務の効率化
- 休眠事業の負担増によって、他の基金事業に注力できていない。黒字化しやすい体質を

## 公1 情報流通事業

沖縄の寄付文化醸成のため全国との連携を図っている。2020年度は、当財団は協会の副会長に就任した。会員数は、正会員20法人、準会員10法人、賛助会員3法人と年々増加傾向にあります。全国におけるコミュニティ財団の信頼性の向上と政策提言、環境整備に努めています。また、全国レガシーギフト協会の理事にも就任し、遺贈寄付の推進に取り組んでいる。

「公1 情報流通事業」は、設立時より公益ポータルサイトを運営しているが、10年の経過とともに、見直しの必要に迫られている。本年度は、公益目的事業の要件を満たしながら、慎重に見直しを進めている。また、円卓マニュアルの改訂を行い、販売を行った。依然として資金の調達ที่難しい構造になっており、新しい事業資金の調達方法を考えていく必要があると考える。

# 公1 情報流通事業 実施した事業

区分	事業名	実施時期	事業の概要
公1 -1)	公益ポータル運営	通年	今年度はページ再構築中のためPV数などのカウントは行わなかった。更新ページを少し工夫して読み物ページなど検索にあたりやすい施策を行っていく。また、どのページで離脱しているのかを計測・判断し、「ページ離脱」の改善も行っていく。
公1 -2)	他機関連携・情報収集	—	<p>全国の動向を知り、沖縄での寄付文化醸成に寄与するため、各機関の研修やフォーラムへ参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おきなわ市民活動支援会議へ参加（月1回）</li> <li>・全国コミュニティ財団協会（以下全コミ財） 副会長 理事会、研修会への参加</li> <li>・全国レガシーギフト協会 理事</li> <li>・寄付月間Giving December 欲しい未来へ、寄付を送ろう</li> <li>・寄付月間推進委員</li> </ul>

区分	事業名	実施時期	事業の概要
公1 -4)	ソーシャル・ヒトワクの放送	月1~2本 再放送あり (4本)	NPOの活動紹介と、NPOの活動を紹介するトーク番組をタイフーンfm (78.0MHz) で放送した。  NPOヒトワク- 放送回数12回 (2010年度からの通算213回)
公1 -5)	みらいファンドニュースの発行	月1回程度 臨時号あり	メール、Facebookなど即時性を活かした情報発信を行う。助成やイベント等の情報を発信し、NPOのみならず社会貢献に関心のある方へ情報を提供し、参加機会の提供を行った。
公1 -5)	季刊広報誌の発行		改訂版円卓マニュアルを発行し、販売を行った

## 公2 資金循環事業

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、社会状況が大きく変化した。課題解決に取り組むNPOも新規ニーズが生まれ、既存ニーズの拡大、事業モデルの転換など、大きな変化を迫られた。そのような状況に対して、休眠預金交付金事業の新型コロナウイルス対応緊急支援助成を申請し『コロナ禍で孤立したNPOとその先の支援』事業を採択いただき、県内の課題解決に取り組む団体に、助成総額：21,600,000円の助成事業を実施。6団体に助成を行った。今後、新型コロナウイルスの状況に応じて、助成支援メニューなどの検討が必要と考える。

「寄付と助成のプログラム」では、カスタマイズの間い合わせが増え、新規に5基金立ち上がった。成果の基金プログラムにするには伴走支援が求められる。第12期が寄付募集活動支援期間が終了し、第13期は、2事業が採択され寄付募集を行っている。

じぶん基金は、中野五海篠木あつ子基金ができ、人生の最後により基金プログラムが求められている。基金数が、年々増えていくことから、基金運営については、いっそうの効率化と基金目的を達成するための運営が求められる。

「地域円卓会議」は、コロナ禍で対面で集まることが難しいなか、オンライン型の円卓会議を開発を行った。、コロナ禍で課題が山積する中、議論を止めることなく、課題を議論し共有できる場を社会に提供することができた。

区分	事業名	実施時期等	事業の概要
公2 - (1)	テーマ型基金 C001 世界若者ウチナンチュ大会支援基金	2012年6月設置	今年度は特に活動なし。基金の今後の展開については、今後も継続することが確認された。
公2 - (1)	テーマ型基金 C002 沖縄まちと子ども基金	2012年12月設置	2020年度は未実施
公2 - (1)	テーマ型基金 新規 C003 沖縄・離島の子ども派遣基金	2020年度設置	<p>沖縄・離島の子ども派遣基金事業の実施にともない基金設置。</p> <p>沖縄電力のmoreEと協定</p>  <p>7月7日 記者会見</p>

区分	事業名	実施時期等	事業の概要
公2 -2)	寄付と助成のプログラム 第12期たくす	寄付募集支援期間 2019年9月～2020年8 月	期間 2019年9月～2020年8月 採択団体：2団体 ・NPO乳がん患者の会 ぴんく・ぱんさー ・NPO法人 沖縄青少年自立援助センター ちゅらゆい
公2 -2)	寄付と助成のプログラム 第13期たくす	寄付募集支援期間 20年9月～2020年8月	募集期間：2020年7月20日～8月17日  選考会： 日時：2020年8月28日（金）18:30～19:30 場所：みらいファンド沖縄事務所及びオンライン会議システムZOOM  採択団体：2団体 ・NPO乳がん患者の会 ぴんく・ぱんさー ・一般社団法人 沖縄県女性の翼  寄付募集目標総額 2,380,000円

## 公2 資金循環事業

区分	事業名	実施時期等	事業の概要		
公2 -2)	寄付と助成のプログラム たくす カスタマイズ	寄付募集支援期間			
	基金名	助成先	2020年度寄 付額	基金総額	所感
Pc002	こどもシェルター	一般社団法人長生楽	¥0	¥1,160,000	2018年度設置 助成実施
Pc003	首里城アーカイブ基金	沖縄デジタルアーカイ ブ協議会	¥45,170	¥831,973	2019年度設置
pc004	日本こどもみらい支援機構 を支援する会	日本こどもみらい支援 機構	¥3,000	¥149,000	2019年度設置・終結 助成実施
Pc005 なわ基金	多文化ネットワークfuふ！おき	多文化ネットワークfu ふ！おきなわ	¥1,050,000	¥1,050,000	2020年度設置・新規 助成実施
PC006 ネーションショップ基金	Ok Hands Ok Hearts ド	Ok Hands Ok Hearts	¥50,000	¥50,000	2020年度設置・新規
Pc007	まちなか留学HelloWorld	HelloWorld 株式会社	¥150,000	¥150,000	2020年度設置・新規
Pc008	ミマモライド基金	合同会社トキニライド	¥0	¥0	2020年度設置・新規
Pc009	宮城已知子ピースフィルムラ イブラリー基金		¥50,000	¥50,000	2020年度設置・新規

区分	事業名	実施時期等	事業の概要
公2 -3)	じぶん基金（個人創案型基金） J003 宮里大八国際交流基金	2015年設置	コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今回は公募は行わなかった
公2 -3)	じぶん基金（個人創案型基金） J004 新崎盛暉平和活動奨励基金	2017年1月設置  寄付募集支援期間 2020年4月～	<p>沖縄の歴史を踏まえ、沖縄の平和と人権を守り、沖縄を世界の平和の拠点とする市民の創造的実践活動、研究活動を助成することを目的として、この基金を設置します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（第4期）募集期間：2020年4月13日（月）～5月29日（金）</li> <li>・選考会：日時：2020年6月24日（月）18:30～20:30 場所：みらいファンド沖縄事務所</li> <li>・助成金額：31万円 地域住民が主体となった戦争体験者の聞き取り、次世代へ継承する活動生活協同組合コープおきなわ</li> <li>・報告会は、コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施を見送った</li> </ul>
公2 -3)	じぶん基金（個人創案型基金） J005 琉球宇温基金	2019年設置	<p>志半ばで亡くなった宇温が参画していた活動をサポートし、課題の解決に貢献すると共に彼の遺志を引き継ぎ、彼の「幸せをつなぐ」という志を引き継ぎたい家族と有志が集まり、この基金を設立。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員会：日時：2020年9月26日（土）10:00～12:00 場所：オンライン会議システム（ZOOM）</li> <li>・助成金額：30万円×2件 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特定非営利活動法人アメラジアンスクール・イン・オキナワ</li> <li>2. 一般社団法人 大学コンソーシアム沖縄</li> </ol> </li> </ul>

区分	事業名	実施時期等	事業の概要
公2 -3)	<p>じぶん基金（個人創案型基金） J006 中野五海篠木あつ子基金</p>  <p>贈呈式 中野さん、篠木さんと採択者の秋山さん</p>	2020年4月設置	<p>助成目的： 国民国家の枠組みに囚われない平和意識の覚醒・構築（パラダイムチェンジ）を指向する研究。若手及び民間研究者の研究活動を助成し、その成果を社会に還元すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選考会：日時：2020年4月24日（月）14:00～15:00 場所：みらいファンド沖縄事務所</li> <li>・助成金：各30万円 秋山道宏（沖縄国際大学 准教授） 研究分野：社会学、沖縄戦後史、平和研究</li> </ul> <p>上原こずえ（東京外国語大学世界言語社会教育センター特任講師） 『共同の力 1970～80年代の金武湾闘争とその生存思想』</p>

区分	事業名	実施時期	概要と事務局所感
公2 -(1~3)	以上の基金・プログラムのファンドレイジング等の支援に関する業務	1月	遺贈寄付勉強会の実施 参加団体 みらいファンド沖縄、シナジープラス、TAパートナーズなど
公2 -(5)	地域づくりのための 助成事業活用シンポジウム	3月	<p>助成団体ネットワークオンラインセミナー 「コロナ禍で変化した地域自治のこれから」</p> <p>日 時：2021年3月12日（金）13:30～16:00 開催方法：オンライン会議システム（Zoom）を使用して実施 参加者：33名 進行：平良斗星（（公財）みらいファンド沖縄） 第1部 基調講演：IIHOE 代表 川北 秀人 第2部 テーブル着席者 （公社）沖縄県地域振興協会 専務理事 玉那覇 靖 （公財）みらいファンド沖縄 代表理事 小阪 亘</p> <p>■主 催 地域づくりのための助成事業活用シンポジウム実行委員会 ■構成団体 沖縄県地域づくりネットワーク、おきなわアジェンダ21 県民会議、沖縄県企画部、（公社）沖縄県地域振興協会、社会福祉法人 沖縄県共同募金会、社会福祉法人沖縄県社会福祉協議会、（公財）沖縄 県文化振興会、沖縄銀行、琉球銀行、沖縄ろうきん、コープ沖縄、沖縄 子どもの未来県民会議、琉球新報、（公財）みらいファンド沖縄</p>

\* 公2-(4)キャンペーン型基金については当年度は実施していない

区分	事業名	実施時期	概要と事務局所感
公2 - (5)	休眠預金交付金事業 沖縄・離島の子ども派遣基金事業	2019年12月～ 2023年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実行団体（2020年度助成額：21,110,000円） 一般社団法人沖縄県サッカー協会 NPO法人豊見城市体育協会 株式会社ハブクリエイティブ（石垣）</li> <li>・ 集合研修の開催 5月26日（火）13時30分～17時</li> <li>・ 円卓会議1回10/10 沖縄県サッカー協会</li> <li>・ 円卓会議2回11/6 豊見城市体育協会</li> <li>・ 円卓会議3回1/30 評価</li> <li>・ 集合研修の開催 3月4日（木）13時～17時30分</li> </ul> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から部活動の大会が中止になるケースが多く、派遣事業も中止になり、事業実施が困難だった</p>
公2 - (5)	休眠預金交付金事業 新型コロナウイルス対応緊急支援助成 『コロナ禍で孤立したNPOとその先の支援』事業	2020年8月～ 2021年6月	<p>事業総額：28,243,000円 助成総額：21,600,000円 実行団体一覧</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特定非営利活動法人1万人井戸端会議（助成金額：3,497,350円） 課題の見える化と行動できるコミュニティへ</li> <li>2. 特定非営利活動法人沖縄NGOセンター（助成金額：3,596,520円） 多文化共生セーフティーネットワークの構築</li> <li>3. NPO法人沖縄県学童・保育支援センター（助成金額：3,600,000円） コロナ禍だからこそ繋がろう！</li> <li>4. 一般社団法人おきなわジュニア科学クラブ（助成金額：3,006,377円） 子どもの居場所×フードパントリー</li> <li>5. 特定非営利活動法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい（助成金額：3,575,326円） アンダーコロナに対応するICT整備事業</li> <li>6. 一般社団法人琉球フィルハーモニック（助成金額：3,600,000円） 音楽による子どもの居場所づくり：ジュニアジャズオーケストラ活動</li> </ol>

\* 公2-(4)キャンペーン型基金については当年度は実施していない

## 公2 資金循環事業

区分	事業名	実施時期等	事業の概要
公2 -6)	地域円卓会議の開催・支援	通年	地域の社会的課題の解決のための対話の場である「地域円卓会議」の開催・支援を行った。 地域円卓会議：11回 参加人数：約249名（昨年度490名 昨年比-241）

	日付	内容	主催	参加人数
1	9/9（水）	コロナ禍の外国人留学生地域円卓会議、オンライン2日型	みらいファンド沖縄	46名
2	10/11（日）	沖縄科学系人材育成円卓会議、オンライン2日型（派遣）	子供科学技術人材育成事業事務局	11名
3	10/10（土）	部活動派遣費問題を考える円卓会議（サッカー協会）、オンライン2日型	沖縄県サッカー協会 みらいファンド沖縄	5名
4	10/26（月）	沖縄市うるま市連携の歴史文化体験施設周遊事業地域円卓会議	沖縄市、 うるま市	8名
5	10/27（火）	Withコロナ時代の新しいまちづくりを考える地域円卓会議、オンライン+リアル2日型	なは市民協議会	約28名
6	11/6（金）	部活動派遣費問題を考える円卓会議in豊見城、オンライン2日型	豊見城市体育協会 みらいファンド沖縄	5名
7	11/21（土）	コロナ禍で生まれたまちづくりを考える地域円卓会議、リアル1日型	那覇市	20名
8	1/7（木）	スクールロイヤーを子どもの視点から考える地域円卓会議、オンライン1日型	（一財）鎌倉フェローシップ	21名
9	1/30（土）	部活動派遣費問題を考える地域円卓会議、オンライン1日型	みらいファンド沖縄	54名
10	2/16（火）	ちゅらゆい社内地域円卓会議、オンライン1日型（派遣）	沖縄県自立支援センターちゅらゆい	32名
11	3/24（水）	コロナ禍の子ども支援者地域円卓会議、オンライン1日型	みらいファンド沖縄	19名

区分	事業名	実施時期	概要と事務局所感
公2 -(6)	コレクティブインパクト事業	通年	<p>沖縄における重要課題において、コレクティブインパクトで社会課題解決を行う事業に取り組む</p> <p>①沖縄県認知症高齢者見守り推進事業 ②子どもの貧困問題の解決</p>
公2 -(6)	寄付月間2020	12月	<p>寄付月間パネル展の実施 期間：2020年12月16日～2021年1月4日 場所：沖縄県立図書館3階展示コーナー 共催：沖縄県、琉球大学、みらいファンド沖縄 内容： ・寄付月間2020について ・参加団体パネル（活動の紹介） 公益財団法人みらいファンド沖縄 琉球大学基金室</p>
公2 -(6)	各種勉強会の開催	随時	特になし

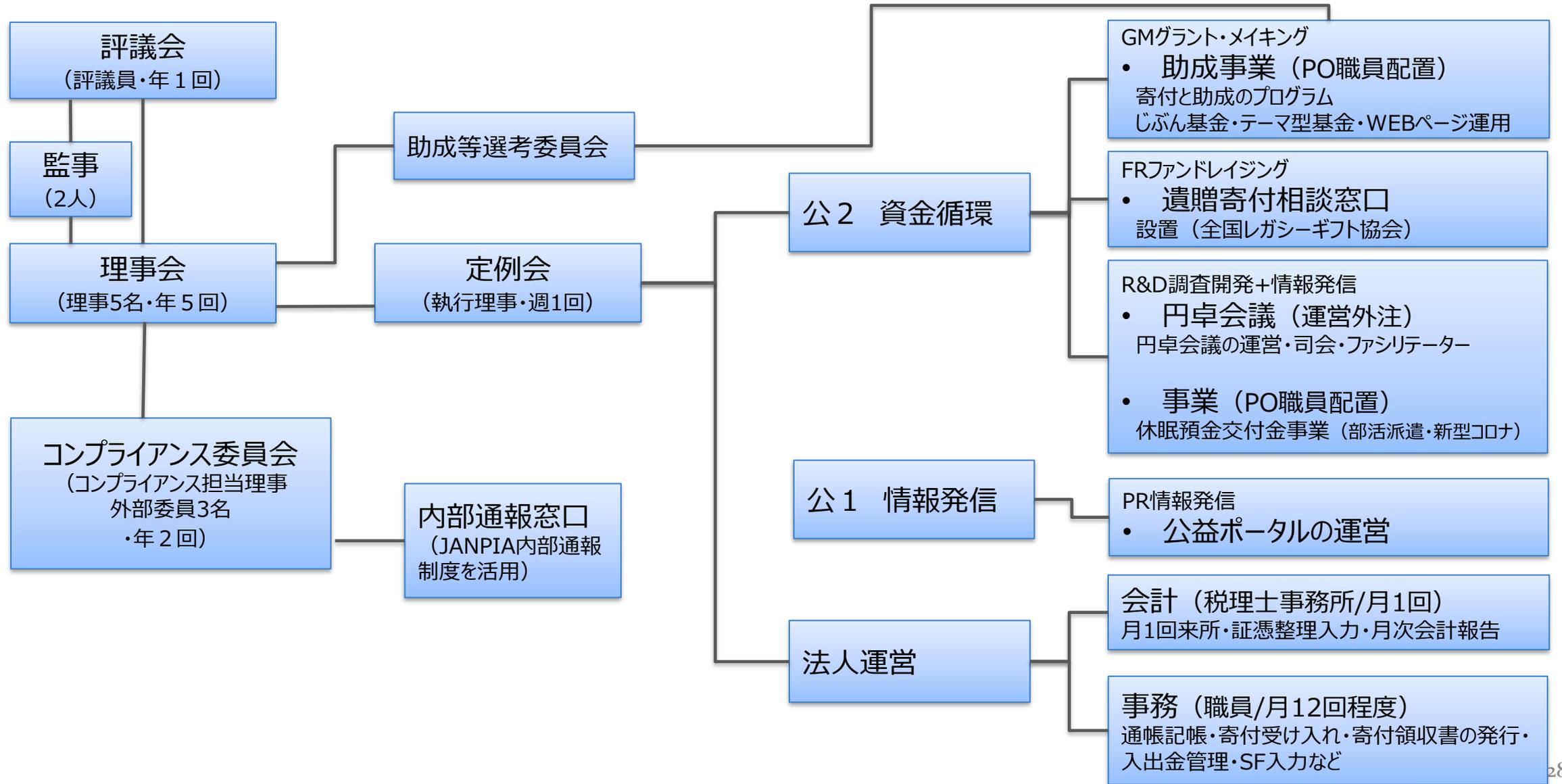
\* 公2-(7)寄付付き商品の企画・提案・コーディネートについては当年度は実施していない

## 法人運営

新たに休眠預金交付金事業が実施したことから、より高いガバナンス・コンプライアンスが求められている。規定類を新たに追加、理事会にコンプライアンス委員会を新設し、内部通報窓口の設置もおこなうなど、ガバナンス・コンプライアンスの強化を図った。

区分	事業名	実施時期	概要と事務局所感
法人	評議員会の開催	6月	<p>第1回 定期評議委員会            日時：2020年6月18日（木）10:00～11:30            場所：みらいファンド沖縄 事務所            議事：第1号議案 2019年度事業報告及び決算の承認の件            第2号議案 任期満了に伴う理事改選の件</p>
法人	監事監査	5月	<p>日時：2020年5月15日（金）10:30～12:00            場所：みらいファンド沖縄 事務所            監事：名城佳枝 山崎新</p>
法人	理事会の開催	通年	<p>第1回 2020年6月2日（火）10:00～12:00 前年度事業報告の承認など            第2回 2020年6月18日（木）決議の省略 代表理事の選任            第3回 2020年7月31日（金）10:00～12:00 新型コロナ対策 新事業実施、            新規職員の採用について            第4回 2020年12月16日（水）13:30～15:30 部活派遣基金の寄付募集目論見書の件など            第5回 2021年2月18日（木）10:00～12:00 法人運営状況報告            第6回 2021年3月25日（木）10:00～12:00 2020年度決算状況、2021年度事業計画など            場所：みらいファンド沖縄 事務所</p>
法人	コンプライアンス委員会の開催	9月 3月	<p>第1回 2020年9月25日（金）10:00～11:30            第2回 2021年3月19日（金）10:30～12:00            場所：みらいファンド沖縄 事務所            委員：大浅田均、保田隆男、仲根佑亮</p>
法人	事務局体制	随時	<p>定例会 毎週木曜日10時 常務理事3名にて実施            職員：新城やよい（週3回勤務）            比嘉智子（週2回勤務）新型コロナウィルス対応休眠預金事業に係る業務担当            会計業務：大城税理士事務所に委託 月次報告            緊急事態宣言中は在宅勤務でも可能とした</p>

# 当法人におけるガバナンス 組織体制



# 役員一覧

評議員（任期（4年）：2018年6月3日～2022年評議員会まで）

役職	氏名	所属
評議員	イナガキ ジュンイチ 稲垣 純一	沖縄電子ビジネス専門学校 理事
評議員	マキヤ ミツコ 真喜屋 光子	有限会社センチュリー経営企画（マキの靴）代表取締役
評議員	ノハ マサヒロ 饒波 正博	沖縄赤十字病院勤務 なは市民協議会
評議員	イトカズ ミキ 糸数 未希	NPO法人にじのはしファンド代表
評議員	モトムラ マコト 本村 真	琉球大学キャリア教育センター センター長・人文社会学部教授
評議員	ツヅキ ヨウコ 續 洋子	NPO法人1万人井戸端会議 副代表/事務局長

理事（任期（2年）：2020年6月18日～2022年評議員会まで）

役職	氏名	所属
理事 代表理事	ゴサカ ワタル 小阪 亘	特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく 代表理事
理事 副代表理事	タイラ トウセイ 平良 斗星	株式会社エフエム那覇 会長
理事	オナガ コウキ 翁長 有希	一般社団法人沖縄県キャリア支援・教育連携協議会 理事 一般社団法人be.らぼらとり 代表理事
理事	テルキナ トオル 照喜名 通	沖縄県難病相談支援センター 認定NPO法人 アンビシャス 副理事長
理事	チネン タダヒコ 知念 忠彦	医療法人天仁会 天久ヒルトップ 施設長

監事（任期（4年）：2018年6月22日～2022年評議員会まで）

役職	氏名	所属
監事	ナシロ ヨシエ 名城 佳枝	大学非常勤講師、ファイナンシャルプランナー、沖縄県金融広報アドバイザー
監事	ヤマザキ アラタ 山崎 新	株式会社おきなわedu 取締役

# 組織概要

名称	 公益財団法人 みらいファンド沖縄
英名	Mirai Fund Okinawa Inc. Foundation
設立年月日	2010年4月23日
公益認定日	2011年4月1日
事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
代表理事	小阪 亘
設立経緯	財団設立供出金300万円を 93名の市民から寄付を頂いて 設立
住所	〒903-0824 沖縄県那覇市首里池端町34 2Fタイフーンfm内
加盟団体	一般社団法人全国コミュニティ財団協会 一般社団法人全国レガシーギフト協会

みらいファンド沖縄は、市民のみなさまからの寄付により、設立した「市民立」の財団です。

沖縄の公益活動団体を意志ある人々によって支え合う——みらいファンド沖縄の設立趣意に共感し、設立時拠出金をご寄付くださいましたみなさまに、感謝申し上げます。



## 設立時拠出金に寄付くださったみなさま

(五十音順・敬称略)

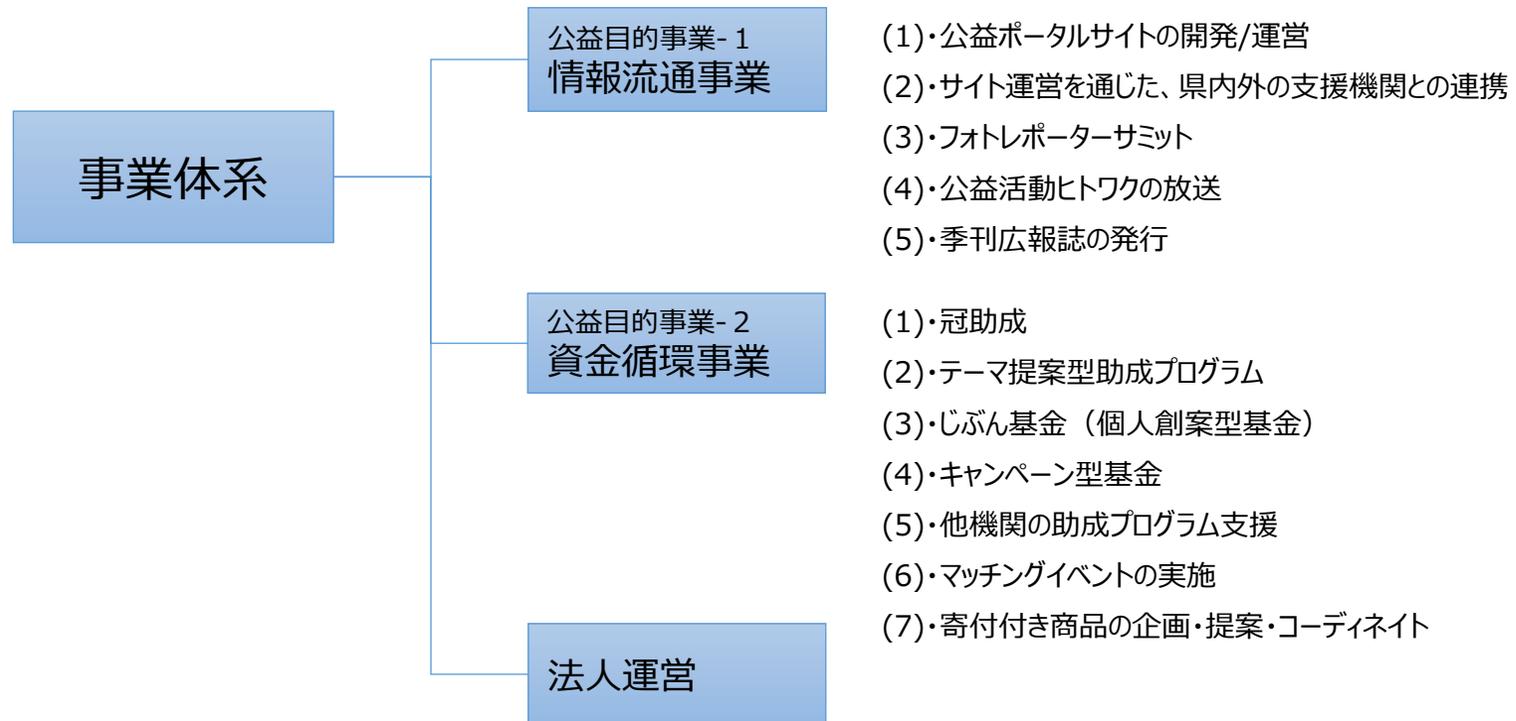
秋葉 武 新井 裕子 新垣 八重子 (有)新垣ちんすこう菓子店  
有井 安仁 東濱 克紀 認定NPO 法人アンビシャス  
石原 達也 今津 新之助 岩田 直子 (株)エフエム那覇  
(株)エフエム21 遠藤 聡志 大城 逸子 大城 喜江子  
大城 幸代 大城 成信 大城 武久 大見謝 恒章  
NPO 沖縄シニアの会 川北 秀人 菊之露酒造(株) 金城 嘉志  
金城 和光 (株)クレイ沖縄 古我知 浩 小阪 亘 小橋川 繁  
小松 かおり 呉屋 貴司 佐久間 愛弓 下地 美香  
(特活) 首里まちづくり研究会 佐脇 広平 新開 育恵  
新星出版(株) 杉浦 幹男 関口 宏聡  
税理士法人添石総合会計事務所 添石 幸伸  
(特活) ソーシャル・デザイン・ファンド 平良 斗星 平良 恵津子  
地域情報エージェント(株) 知花 茂 知念 金徳  
(特活) ちゅらしまフォトミュージアム 當間 愛晃 戸田 幸典  
渡真利 雅男 仲村 一真 中村 聡 (特活) 日中文化交流センター  
比嘉 司 平井 雅 福岡 智子 前田 比呂也 真喜屋 光子  
(特活) まちなか研究所わくわく 松本 哲治 宮里 大八  
宮道 喜一 宮島 さおり 米野 史健 山城 岩夫 山城 司  
与儀 隆一 與古田 清順 (特活) ライフサポートてだこ  
(有) ルーツ 若尾 貴広 若尾 美希子 渡邊 真寿美  
匿名にて寄付くださった方々

(合計 93 名、300 万円)

当財団は、市民コミュニティ財団として公益法人格を有して、以下の公益目的事業を実施する。

コミュニティ財団とは、地域の人々によって設立され、地域のために活動する慈善事業組織です。この組織は、地域からの寄付によって成り立ち、市民によって構成される理事会によって運営され、地域社会のより良い暮らしのために活動しています。資金源は多種多様であり、地域社会の長期的な生活の質の向上のために活用されています。これらの資金は地域社会の代表の選択により各種組織・目的に向けて配分されます。

(全国コミュニティ財団協会資料より抜粋)



# 受入れ寄付額と助成の実績（2010-2020）

		受入寄付 年度達成額	受入寄付 累積達成額	助成金交付 年度実施額	備考
2010 (第1期)	立上期 財団機能 基盤構築	9,197,780円	9,197,780円	5,755,250円	・受入寄付額には拠出金を含む ・震災関連寄付を含む
2011 (第2期)		3,824,684円	13,022,838円	2,427,218円	・受入寄付額にはみらいファンド 沖縄への寄付を含む ・震災関連寄付を含む
2012 (第3期)		5,170,037円	18,194,341円	3,709,315円	・受入寄付額にはみらいファンド 沖縄への寄付を含む
2013 (第4期)	助成プログラ ム・円卓会議 の確立	4,920,777円	23,115,118円	2,383,834円	・受入寄付額にはみらいファンド 沖縄への寄付を含む
2014 (第5期)		2,760,362円	25,875,480円	2,549,919円	・受入寄付額にはみらいファンド 沖縄への寄付を含む
2015 (第6期)		12,718,093円	38,593,573円	1,745,517円	・受入寄付額にはみらいファンド 沖縄への寄付を含む
2016 (第7期)	FR機能の 強化・確立	29,679,412円	68,272,985円	1,325,250円	・受入寄付額にはみらいファンド 沖縄への寄付を含む
2017 (第8期)		19,839,830円	87,839,405円	3,287,547円	・受入寄付額にはみらいファンド 沖縄への寄付を含む
2018 (第9期)		30,349,469円	118,188,874円	70,000,454円	・受入寄付額にはみらいファ ンド沖縄への寄付を含む
2019 (第10期)		6,560,495円	124,786,729円	4,342,750円	・受入寄付額にはみらいファ ンド沖縄への寄付を含む
2020 (第11期)		7,394,952円	132,181,681円	44,208,552円	休眠預金事業の部活派遣事業 とコロナ支援事業の助成金の 内訳が39,888,015円

# 略年表 (2009-2013)

年度	みらいファンド沖縄の主なできごと	社会の主なできごと
2009 H21	<ul style="list-style-type: none"> <li>•キックオフフォーラム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•衆議院選挙で民主党圧勝</li> <li>•裁判員制度施行</li> </ul>
2010 H22	<ul style="list-style-type: none"> <li>•法人設立</li> <li>•那覇市「地域づくり・公益活動支援事業」受託（緊急雇用事業）</li> <li>•「じぶん基金」プログラム2基金スタート</li> <li>•沖縄NPOデータベース公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•普天間基地の辺野古移転が白紙に</li> <li>•沖縄県民税の寄附金控除対象法人が拡大</li> <li>•「新しい公共」円卓会議</li> <li>•11月 仲井眞知事 再選</li> <li>•12月 ISO26000発効</li> <li>•3/11 東日本大震災</li> </ul>
2011 H23	<ul style="list-style-type: none"> <li>•公益財団法人化</li> <li>•「寄付と助成のプログラム」スタート</li> <li>•H23「沖縄県新しい公共支援事業」受託</li> <li>•クレジットカードにて寄付決済サービス開始</li> <li>•PSTをクリアし、税額控除認定を受ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•6月 新しい市民公益税制が成立</li> <li>•6月 改正NPO法が成立</li> <li>•7月 なでしこジャパン FIFA杯優勝</li> <li>•10月 世界のウチナーンチュ大会</li> </ul>
2012 H24	<ul style="list-style-type: none"> <li>•H24沖縄県「新しい公共支援事業」受託</li> <li>•「世界若者ウチナーンチュ大会支援基金」設置</li> <li>•カンパイチャリティを開催</li> <li>•「沖縄まちと子ども基金」設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•4月 新認定NPO法人制度スタート</li> <li>•5月 沖縄の本土復帰40周年</li> <li>•8月 ロンドンオリンピック</li> <li>•11月 那覇市長に翁長氏が4選</li> <li>•12月 衆議院選挙で自民党圧勝</li> <li>•2月 浦添市にNPO出身の市長が誕生</li> </ul>
2013 H25	<ul style="list-style-type: none"> <li>•4月 事務局をタイフーンfm内に移転</li> <li>•6月 国交省 事業受託</li> <li>•7月 累積寄付受入額 2000万円を突破</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•4月 インターネット選挙解禁</li> <li>•6月 富士山が世界遺産に</li> <li>•11月 旧民法法人の移行特措期間終了</li> </ul>

# 略年表 (2014-2016)

年度	みらいファンド沖縄の主なできごと	社会の主なできごと
2014 H26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月「寄付と助成のプログラム」を再編し公募開始</li> <li>・6月一般社団法人全国コミュニティ財団協会設立、設立時九州ブロック理事として参画</li> <li>・3月全国コミュニティ財団協会海外招聘事業フォーラム・研修 「米国のコミュニティ財団100年の歴史に学ぶ」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月 消費税増税（8%に）</li> <li>・5月 日本創生会議が自治体の896が消滅の危機にあると発表。地方消滅（通称増田レポートの発表）</li> <li>・9月 第2次阿部内閣にて、地方創生担当大臣に石破茂とまち・ひと・しごと創生本部を設置。</li> <li>・9月 FIFAワールドカップ ブラジル大会</li> <li>・12月 沖縄県知事に翁長雄志氏が当選</li> <li>・2月 介護保険制度の改正（要支援1，2が予防給付の対象除外に）</li> </ul>
2015 H27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月 じぶん基金 宮里大八国際交流基金を設置</li> <li>・12月 寄付月間、全国規模の寄付推進の取り組み、寄付月間推進委員として、沖縄で寄付推進に取り組む</li> <li>・1月 遺贈寄付 第1号を受け入れる</li> <li>・2月8日 みらいファンド沖縄5周年記念イベント ドネーションパーティ&amp;サンクスデー</li> <li>・琉球大学、名桜大学とCOC+円卓会議開催（県内5カ所）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普天間基地の辺野古移転が白紙に</li> <li>・沖縄県民税の寄附金控除対象法人が拡大</li> <li>・「戦後70年談話」</li> <li>・9月10日 関東・東北豪雨 鬼怒川氾濫</li> <li>・9月19日 参院本会議で“安保法”可決</li> <li>・11月13日 「パリ同時多発テロ」発生</li> <li>・12月 寄付月間が、寄付を推進する全国的な取り組みが初めておこなれた。</li> <li>・2月 国勢調査で初めて人口減少 1920年の調査開始以来初めて。</li> </ul>
2016 H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月 沖縄県が、県内の深刻な子どもの貧困の解決に向けて 沖縄子ども未来県民会議を設置 事業部会の委員として参画</li> <li>・11月 マニフェスト大賞 優秀賞 受賞</li> <li>・11月 全国レガシーギフト協会 設立総会（みらいファンド沖縄加盟）</li> <li>・税額控除認定 更新</li> <li>・1月 新崎盛暉平和活動奨励基金 を設置</li> <li>・累積寄付受入額 5000万円を突破</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月 日銀がマイナス金利政策を導入したことにより、 長期金利が過去最低を更新</li> <li>・4月14日、16日 熊本地震、初めて震度7が2回観測</li> <li>・5月 伊勢志摩サミット オバマ米大統領が広島訪問</li> <li>・12月2日 休眠預金活用法成立</li> <li>・1月 ドナルド・トランプの第45代アメリカ合衆国大統領就任</li> </ul>

# 略年表 (2017-2020)

年度	みらいファンド沖縄の主なできごと	社会の主なできごと
2017 H29	<ul style="list-style-type: none"> <li>11月 助成財団シンポジウム（助成財団センター）と実施</li> <li>1月 沖縄県で初めて遺贈寄付研修をNPO向け、土業向けに実施</li> <li>3月 沖縄県が寄付月間2017で賛同パートナー特別賞を受賞</li> <li>3月 1年間で16回の円卓会議を開催（過去で最高件数）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月 トランプ大統領就任、米国第一主義を掲げる</li> <li>3月 特定非営利活動促進法 成立20周年</li> <li>7月 都議選で都民ファーストの会が躍進</li> <li>9月 桐生 9秒98 日本人初の10秒台突破</li> <li>10月 第48回衆議院選挙 自民党が3分の2議席</li> </ul>
2018 H30	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月 評議員、理事、監事改選</li> <li>5月 寄付受入金額1億円突破</li> <li>12月 みらいファンド沖縄活動報告書2010-2018発行</li> <li>3月 沖縄式地域円卓マニュアル作成費のためのクラウドファンディング実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月 仮想通貨流出、交換業者に改善命令</li> <li>5月 将棋・藤井聡太、最年少で七段に</li> <li>8月 翁長沖縄県知事死去</li> <li>9月 玉城沖縄県知事就任</li> <li>11月 2025年大阪万博開催決定</li> </ul>
2019 H31 R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月 うむさんラボと協定を結びうむさん基金を設置</li> <li>11月 休眠預金交付金事業「沖縄子どもの派遣基金事業」事業スタート</li> <li>3月 理事会にコンプライアンス委員会を設置。第1回開催</li> <li>3月 内部通報窓口の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月 休眠預金-指定活用団体の決定</li> <li>1月 休眠預金の発生</li> <li>5月 新元号 令和</li> <li>9月 台風・豪雨災害（台風15号、19号）</li> <li>9月 ラグビーワールドカップが日本にて開催</li> <li>10月 消費税10%に引き上げ</li> <li>10月 首里城火災 正殿など焼失</li> <li>11月 中国武漢にて新型コロナウイルス発生</li> </ul>
2020 R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月 「新型コロナウイルス感染拡大への対応及び支援に関するNPO法人等緊急アンケート」をおきなわ市民活動支援会議で実施（4月6日～4月20日）</li> <li>4月 那覇市長に要望書を手交</li> <li>8月 休眠預金活用事業-新型コロナウイルス対応緊急支援助成『コロナ禍で孤立したNPOとその先の支援』事業 採択</li> <li>9月 初めてオンラインで地域円卓会議を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月 3日 政府要請により小中学校臨時休校（3/16 再開）</li> <li>3月 24日 東京五輪、令和3年に延期決定</li> <li>4月 7日 政府が7都道府県に緊急事態宣言を発出（4/16に全国に拡大） 日本政府が国民一律10万円の特別定額給付金と布マスクの支給を決定</li> <li>7月 コンビニやスーパーでのレジ袋が有料化</li> <li>8月 安倍晋三総理が病気の悪化により辞任を表明</li> <li>9月 菅義偉さんが第99代総理大臣に選出</li> <li>12月 日本の宇宙探査船「はやぶさ2」が小惑星リュウグウの試料を地球に持ち帰る。</li> </ul>